

高松市生島町の下笠居小学校（北村直行校長）の児童が、デジタル端末を活用してミニトマトやオクラなどの野菜作りに取り組んでいる。野菜ごとの特徴や世話の仕方をインターネットで調べたり、育つ様子を写真で撮影したりしており、今後は成長の記録や育て方のコツなどを端末を使ってまとめていく。

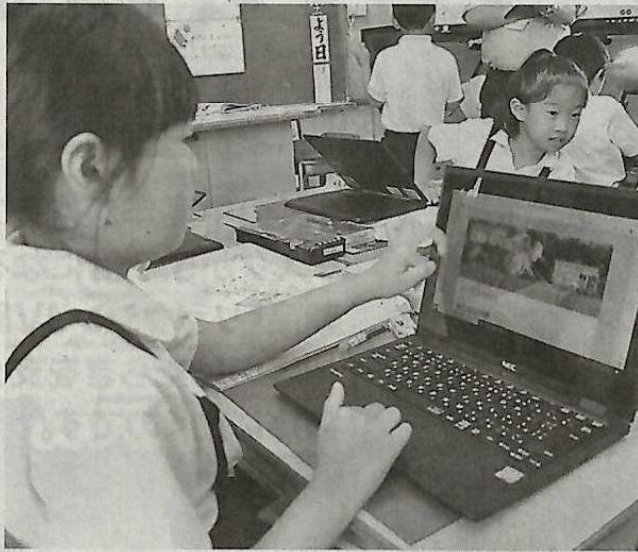
タブレットなどデジタル端末を1人に1台配備する国の「GIGAスクール構想」が進む一方、自治体や学校間での活用状況の差が課題に挙げられている。そこで文部科学省は本年度、先進的な取り組みを行っている小中高校を「リーディングDXスクール」に指定。活用事例を全国の学校と共有し始めた。

リーディングには全国で約200校を指定。県内では同小と、米国の大学生とオンラインでの国際交流などに取り組む下笠居中学校の2校が選

端末使い野菜作り挑戦

下笠居小、先進的取り組み校指定

育て方検索や成長記録



デジタル端末を使い、野菜ごとの脇芽の取り方を調べる児童＝高松市生島町、下笠居小

ばれている。野菜作りに取り組んでいるのは2年生34人。4月以降、生活科の授業で、計7種の野菜を育てている。6月23日の授業では、各自の端末を使って脇芽

について検索。キーワードを打ち込み、野菜作りに関するホームページを調べた。その結果、ミニトマトやオクラでは脇芽が養分を蓄えてしまったため摘み取る必要があるのに対し、トウモロコシなどは除去しなくても育つことを学んだ。

オクラを育てている森川愛望さん（7）は「端末を使って検索するのは早くて便利。次は虫が付いた時にどうすればいいかを調べたい」と話していた。

収穫は夏休み前の7月中旬下旬を予定。収穫した野菜は家に持ち帰り、保護者と一緒に調理に挑戦してもらおう。出来上がった料理は端末で撮影し、発表する予定という。

2023年7月1日(土)

四国新聞